

## 令和6年度 大阪市障がい者ピアサポート研修（基礎研修） プログラム（予定）

1日目 9月2日（月）			
科目名	分	内容	講義・演習のねらい
開講オリエンテーション	15	○研修の流れ、目的の説明	○研修の流れと目的を理解する。 ○講義と演習の繰り返しで行うため、グループワークに参加する際のルールを理解する。
1. ピアサポートの理解	30	○障がい領域ごとの歴史や背景 ○障がい領域のごとの視点	○ピアサポートは何かという基本について理解する。 ○ピアサポート活動は障がい者の人権と深く関連しており、障がい当事者の強みを活かし、その人らしい人生を生きるという当たり前の権利を実現しようとすることを支援する点に大きな特徴があることを学ぶ。
2. 演習	60	○講義「ピアサポートの理解」の振り返り、気づきの共有	
昼休憩			
3. ピアサポートの実際・実例	95	○障がい領域ごとのピアサポート実践	「ピアサポートの理解」の中でも障がいごとのサポートについて触れているが、ここでは、障がい当事者の経験に基づく語りを通して、より具体的にピアサポートを理解する。
4. 演習	40	○講義「ピアサポートの実際・実例」の振り返り、気づきの共有	

2日目 9月3日（火）			
科目名	分	内容	講義・演習のねらい
オリエンテーション	5	○2日目の説明	
5. コミュニケーションの基本	40	○ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有	○人を対象としたサポートでのコミュニケーションの大切さを学ぶ。 ○技法を使用することで気づきを共有し、自らのコミュニケーションへの意識を働かせる。
6. 演習	60	○講義「コミュニケーションの基本」の振り返り、気づきの共有	○人を対象としたサポートでのコミュニケーションの大切さを学ぶ。 ○技法を使用することで気づきを共有し、自らのコミュニケーションへの意識を働かせる。
昼休憩（60分）			
7. 障がい福祉サービスの基礎と実際	40	○障がい福祉施策の歴史 ○障がい福祉施策の仕組み	○障がい福祉施策の歴史や障がい福祉施策の仕組みを知る。
8. 演習	20	○講義「障がい福祉サービスの基礎と実際」の振り返り、気づきの共有	
9. ピアサポートの専門性	30	○ピアサポートの具体的な専門性 ○倫理と守秘義務	○ピアサポートの専門性と、それを活かすことにより、より良いサービスが提供できることを理解する。 ○その専門性を担保するための倫理と守秘義務について学ぶ。
10. 演習	50	○講義「ピアサポートの専門性」の振り返り、気づきの共有	

※演習のグループは、ピアサポーターと管理者等の混合のグループです。なお、同じ事業所の方はグループを分かれて受講していただきます。

※各演習でホワイトボードを利用し、グループ内で自己開示や意見交換を行います。また、全体発表もあります。

※講義科目の間に、適宜小休憩を設けます。

※当日のプログラム進行状況等によっては、終了時間が変更になる場合があります。

## 令和6年度 大阪市障がい者ピアサポート研修（専門研修） プログラム（予定）

1日目 9月9日(月)			
科目名	分	内容	講義・演習のねらい
1.基礎研修の振り返り	30	○基礎研修の振り返り	○基礎研修で学んだことを振り返るとともに、専門研修の概要を理解する。
2.ピアサポーターの基礎と専門性	40	○障がい特性に応じた専門性	○”リカバリー”（障がいや病気のある方がありのままの自分らしく生きようとする）について、理解する。
3.演習	60	○講義「ピアサポートの理解」の振り返り、気づきの共有 （各自”リカバリーストーリー”を話していただきます）	○障がい者ピアサポーターとしての専門性について改めて確認する、 ○障がいや病気のある方がありのままの自分らしく生きようとする過程やこれまでの経験等を言葉にすること（リカバリーストーリーを語る）の大切さを理解する。
昼休憩			
4.ピアサポートの専門性の活用	40	○障がい特性に応じたピアサポートの専門性を活かすための視点	○ピアの専門性を活かすために重要な視点を理解する。
5.演習	30	○講義「ピアサポーターの専門性の活用」の振り返り、気づきの共有	○ピアの専門性の活かし方を具体的な事例から学ぶ。
⑥.関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際 （対：ピアサポーター）	40	関連法、関連施策	○保健・医療・福祉に関係制度や法律の関連を知る。 ○生活を支える事業や機関を知る。
⑦.演習（対：ピアサポーター）	40	○講義「関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際」の振り返り、気づきの共有	○障がい福祉サービス事業所等での実際の業務をイメージできるようにする。
⑥.ピアサポートを活用する技術と仕組み（対：管理者等）	40	○現場におけるピアサポートの活用方法	○ピアサポーターがいることで、その事業所の職員だけでなく、組織にも良い影響が生まれることを理解する。
⑦.演習（対：管理者等）	40	○講義「ピアサポートを活用する技術と仕組み」の振り返り、気づきの共有	○ピアサポーターが効果的にそのスキル（能力や実力）を発揮するためには、事業所がピアサポートを理解し、環境を整えることの必要性について理解する。
8.ピアサポーター、管理者等別講義及び演習内容についての共有	20	○ピアサポーター及び管理者等の演習内容の共有	○障がい者、事業所職員それぞれの講義及び演習内容を共有する。

2日目 9月10日(火)			
科目名	分	内容	講師
オリエンテーション	10	○2日目の説明	
⑨.ピアサポーターとしての働き方 （対：ピアサポーター）	30	○労働法規	○労働者として働く上での権利と労働法規について、学ぶ。
⑩.演習（対：ピアサポーター）	40	○講義「ピアサポーターとしての働き方」の振り返り、気づきの共有	○人を支援する上で、理解しておく必要がある倫理や各領域の倫理基準等について学ぶ。
⑨.ピアサポーターを活かす雇用 （対：管理者等）	30	○ピアサポーターを雇用し、協働する上での留意点	○ピアサポーターの雇用についての現状を知る。
⑩.演習（対：管理者等）	40	○講義「ピアサポーターを活かす雇用」の振り返り、気づきの共有	○ピアサポーターが活躍しやすい条件を具体的に考え、ピアサポーターと専門職が協働することについて理解を深める。
昼休憩			
11.セルフマネジメントとバウンダリー	30	○ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ○病気や障がいを抱えて働く上でのセルフケア	○ピアサポーターとして働き続けるために、セルフマネジメント（自己管理）の大切さを知る。
12.演習	40	○講義「セルフマネジメントとバウンダリー」の振り返り、気づきの共有	○役割葛藤、二重関係（複数の関係性）などピアサポーターが葛藤しやすい状況を理解する。 ○バウンダリー（境界線）を意識することで、自分と相手を大切にしている関係を学ぶ。
13.チームアプローチ	40	○所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意点	○チームワークの必要性について、学ぶ。 ○チームの中でのピアサポーターの役割や業務をイメージし、ピアサポーターの強みが発揮できること、発揮できるチームづくりについて、学ぶ。
14.演習	60	○講義「チームアプローチ」の振り返り、気づきの共有	○チームワークの必要性について、学ぶ。 ○チームの中でのピアサポーターの役割や業務をイメージし、ピアサポーターの強みが発揮できること、発揮できるチームづくりについて、学ぶ。

（注）⑥、⑦、⑨、⑩はピアサポーター向け、⑧、⑪、⑫、⑬は管理者等向けカリキュラムとなります。

※演習のグループは、ピアサポーターと管理者等の混合グループです。なお、同じ事業所の方はグループを分かれて受講していただきます。

※各演習でホワイトボードを利用し、グループ内で自己開示や意見交換を行います。また、全体発表もあります。

※講義科目の間に、適宜小休憩を設けます。

※当日のプログラム進行状況等によっては、終了時間が変更になる場合があります。